



外国の人から声かけられたらどうして  
る？ 電車の中であちゃんに声をか  
ける？ エレベーターの待ち合わせで  
はどうしてる？

ごはんやさんで「こちそうさま」と大  
きな声で言う人がいて、素敵だなんて  
思い、小さな声でまねてみた。

私はいつも「おいしかったです」とか  
言うから、子どももまねるようになっ  
た。「いってらっしゃい」「気をつけ  
て」と声かけてくれるバスの運転手さ  
んに会うだけでなんかうれしいと、  
話は続きます。

小学校も中学校も登校時に挨拶してい  
るけれど、腕組みして立っている先生  
の姿がまだまだ多くて…不適切な恰  
好は登校禁止！の空気はやっぱりしん  
どい。これがあたりまえの社会はどう  
なんだろうね。

最初に戻るけれど、自分から声かけら  
れそうなシーンからやってみようかな。

\*\*\*

今回は、孫育て世代6人の参加者で話  
は続きます。

子どもの抱っこ「自分は前を向きたい

んだ」という主張を肌で感じる。寝る  
までのくせや好みは子どもそれぞれ。  
これじゃないと嫌との声をききたい。  
いろんな子がいるし、おとながいる。  
子どもとおとなの融合点を探したい。  
食べることについても、いろいろな話  
題が出されました。

いつかこんなものが食べたいと思える  
のかな？食育の大切さは、体調の管理  
を自分でできるようになることだと思  
えてくる。食べるよりも今したいこと  
がある子。食べることに興味ない子。  
話してみても気づくこと、聴いてみてわ  
かること。食べることは生きること！  
話すこと、聴くことも生きること！

\*\*\*

子どものありのままの声を聴くって可  
能なのかなあ。そう思いながらやりと  
りしても、私の主観が入ってしまう。  
ありのままの行動と捉えたらどうだろ  
う。子ども同士のけんかには、何が起  
こっているのか実況中継する気持ちで。  
見たまま聴いたままがその時の正解。  
そうやって、受け止められたら、いつ  
か本当の気持ちや行動を出してくれる  
ような気がしてきました。

小規模保育所はらっば舎AIAIのある場所は、2015年夏まではHRCビルの口  
ビーでした。そのスペースを快く3階に移動していただき、保育所になり  
ました。子どもたちはビル内散歩をたのしみ、入居団体のみなさんに声を  
かけてもらっています。この度なんと玄関前に畑もつくってもらいました♪  
どんな交流ができるかなとわくわく。虫たちも参加してくれるかも。  
子どもや保護者と、畑や図鑑を見ながら  
会話する日々が始まりました。皆さんか  
らのアドバイスをお待ちしています。



共同子育てトーク～ゆっくり「はなす」をしてみませんか？～

### 子どもとの暮らし 今思うこと

- ◆日時：2月18日（火）13時半～15時 ◆場所：HRCビル3階集合
- ◆対象：どなたでも ◆参加費：無料
- ◆申込み：前日の17時までに子ども情報研究センターまでお電話で。

### パレスチナとつながる写真展

期 間：2月15日（土）13時～2月21日（金）13時

期間中の平日9時30分～18時 自由にご覧いただけます

場 所：HRCビル3階休憩室

公益社団法人子ども情報研究センター 「共同子育て連絡会」  
メール：[renraku@koioken.jp](mailto:renraku@koioken.jp) 合田由紀子 南田安紀子 田松祐子  
電話：06-4708-7087 住所：大阪市港区波除4-1-37 HRCビル5階

## 共同子育てはかたちじゃないー 保育所を共同子育ての場に

### 「共同子育て」って

私たちは、子育て・子育て支援って？を考えるにあたり、鈴木祥蔵著『共同子育て論』を読み合わせ、1983年に共同子育て連絡会を立ち上げられたメンバーと出会い、共同子育てってどういうことだろうと話し続けています。

40年前のメンバーたちは、子育てを母親の役割だといって閉じ込めようとする社会に対して「共同子育て」を提唱していました。個人的な解決などない、もっといっしょに考えて行動しようよ。おとなと子ども、女と男、家庭と社会、仕事と子育て…。抑圧したり対立したりしない共同関係を自分たちで作りだしていきたいという希望が「共同子育て」なのだと考えてきました。

今も、親の事情で子どもが、保育所・幼稚園と分かれて通う社会の仕組み。親が働いていないと3歳までは通うところがない現状…。一時保育の需要は増える一方。今年度、多くの問題点が明らかにされながらも『こどもだれでも通園制度』の試行実施が始まりました。子どもが安全にのびやかに生活できるスペースの確保や保育士不足も気になるところです。

保育を保育所の役割だといって閉じ込めようとしてきた社会から、保育所を「共同子育て」の場にと提唱していきませんか。親が働いているかいらないか、障害があるかどうか、裕福か貧しいか、アレルギーがあるかどうか…などで分けるのではなく、どんな子どももいっしょに通える保育所が必要なのだと思うのです。子どもとつくる保育のたのしさを、保護者・地域の人といっしょに創り出していきたいです。

### 子どもの保育～やってみたい☆こんなこと～

思いっきり走りまわられる自然の中、安心して過ごせる部屋の中、おいしくて栄養のある食事、ともに遊び、やりとりできる仲間、子どもとともに生きていこうとする保育士、おとなたちが、話しあいつながりあえる場…。書きとめながら、想像しながら顔がゆるんでくる。こんな保育あるといいな～ 創ってみたい、子どもたちとあなたと。(Y)

### 子どもたちも生活者

まだ1歳にならない子どもたちも親に連れてこられるだけでなく、「あそぼう！」とワクワクして登園しています。おうちの人と離れるのはさみしいけど、バイバイもそこそこにあそび始めます。おとなが子どもに伝えることもたくさんありますが、保育所では、子どもから教えられることもたくさんあります。おとなが、そういう気持ちでいると、子どもたちの声が、表現が伝わり合い、互いを尊重する関係性が育まれていくように思います。

地域の子どもに、“たのしさをつくりだそう”と呼びかけて、手作りおやつをつくって食べ、あそんでいた頃があった。準備というより、先ずは自分がお試しであそんでみる。子どもたちと過ごすときは、子どものペースに振り回されることをたのしむ。個々のあそび、表現、生活が関係合うために、おとなも子どももあそんじゃおう！(A)

### どんな保育所を創る？

2015年、共同子育て連絡会では、鈴木昭子さんに会い、どんな保育所を創る？と話しました。昭子さんがまとめてくださったことは、次の4点です。  
\*子どもといっしょにつくる保育  
\*子どものあそびを阻害するものはなくす  
\*おとなの仕事は感性を磨き続けること  
\*おとなにしかできないことの1つは、生命の危険を守ること。もう1つは「差別はよくない」とさっと気づき、声をかけられること  
私たちもこの4点を大切にしていきたいと思っています。

見守りがつくる平和…とは安積遊歩さんのことば（『このからだは平和をつくる』より）。「見守り、見守られるということのなかに、大いなる安らぎを感じることができる」と。遊歩さんは子どもをただただ見守っているのが大好きだったそう。私も大好き。子どももおとなも安心して素のままでいられる空間。保育の基本って気がします。(K)